

ミライロの垣内社長が講演

日本福祉大、創立70周年記念で

【半田】日本福祉大学(愛知県美浜町、原田正樹学長)は7日、名古屋市内のホテルで、創立70周年記念講演会「Wellbeing for All」の実現に向けて「ふくしィノベーション」とテクノロジ「」を開催した。ユニバーサルデザインコンサルティングなどを手掛けるミラ

イロ(本社大阪市)の垣内俊哉社長が登壇し、障害を価値とみなす「バリアバリュー」の考え方を紹介した。大学関係者や一般参加者ら約300人が聴講した。

垣内氏は、骨が弱い先天性異常で車いす生活を送りながら、学生時代に起業。ミライロは今年3月、東京証券取引所グロース市場に上場している。



講演する垣内氏

らいたやすく、3カ月で成績トップになった成功体験から、自らの障害を価値と捉えるバリアバリューの考え方に至った経緯を説明。

「日本の障害者数は1165万人で人口の約9%。少し耳が聞こえづらいなど不便さを抱える人を含めれば約25%、約3千万人にユニバーサルデザインが必須」と指摘した。また、「世界規模では16億人、18兆ドルのマーケットがあるが、誰にでも使いやすいインクルーシブ製品を提供する企業は5%に過ぎない」と話し、障害に関係なく活躍できる社会の実現で「経済成長にもつながる」と強調した。

講演前には、今年4月に新設した工学部の福田秀志学部長が「全国唯一のAI建築専修を設け、デジタルトランスフォーメーション、人工知能教育に力を入れ、ユニバーサルデザインの社会実装を目指す」と説明した。